

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 京都文教大学 実施報告書



実施主体 臨床心理学科保育福祉支援コース2年生

実施内容 平成25年12月23日近鉄大久保駅にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

ゼミにて、子どもの虐待とその防止・子育て支援などについて、現場の福祉職と共に学習した。保育を学ぶ学生として、虐待防止のメッセージを伝えたい「対象」、伝えたいメッセージの「内容」、メッセージを伝えるための「方法・手段」などについてディスカッション。オリジナルに企画し、オリジナルなデザインを共同で考えた。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

虐待防止月間中、学内でポスター掲示、パンフレット・オレンジリボン配付を行った。社会に向けての発信は、一般市民と、子育て中の親を別個の対象とし、それぞれに応じたメッセージカードの作成と、グッズの選択を行った(写真上段:市民向け 写真下段:親向け、京都府と提携)。12月に、近鉄大久保駅で街頭啓発活動を実施した(グッズ、約600個配付)。1月に、メッセージカードとグッズを近隣保育園に届け、必要な親へのメッセージカードとグッズの活用を依頼した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- * 伝わりやすい(伝えたい)メッセージ・絵や、適切なグッズを選ぶのが難しかった。
- * 「がんばってね、ありがとう。周りに伝えておくわ…」と関心を示してくれる人がいたのが嬉しかった。私たちの趣旨を、少しでも分かってくれた人がいた。
- * オレンジリボン運動が、もっと拡がっていったらいいなと思った。
- * 活動してみると、子ども連れであっても、関心の低い人や受け取ってくれない人も結構多く、世間の意識はまだまだ低いと感じた。配付活動していく気持ちが萎えてしまいそうになったこともあった。
- * 活動してみて楽しかった。
- * メッセージを読んで、少しでも気持ちが温かくなつた人がいたらいいなあと思った。
- * 「こんな活動をしている学生がいる」と分かってもらえたのではないだろうか。次に機会があれば、少しでも関わりたい。
- * ただ渡すだけでは伝わらない。こちらの気持ちや姿勢をしっかりと表すことで、思いが伝わるのだと思った。
- * 今、この時にも、虐待が起きていて、それに周囲の人が気づけるよう、今後も虐待防止のボランティアをして、いろんな人に知つてもらえたらしいなと思った。



上図 オリジナルメッセージカードとあめ

下図 オリジナルデザインウェットティッシュ
オリジナルメッセージカード

平成25年度



「学生によるオレンジリボン運動」 箕面学園福祉保育専門学校 実施報告書

実施主体 保育科1・2年生(介護福祉科1・2年生有志)

実施内容 平成25年7月28日箕面まつり、11月24日文化祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- 1、学校特別授業として講座「児童虐待について」を実施。 平成25年8月21日(水)9:00～10:30
講師：坂本洋二(司法書士 弁護士会に派遣依頼) 内容：児童虐待の現状
- 2、「オレンジリボン作り」平成25年7月23日(火)13:00～
学生による配布用オレンジリボンの作製。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

- ①平成25年7月28日(日)10:00～「箕面まつり」にて箕面都市開発株式会社と連携し、「子育て広場」を設置・開放。そこで、学生スタッフが「オレンジリボン」を付けて活動。また、オレンジリボンを付けてステージ出演し、子どもうたを披露。
- ②平成25年11月24日(日)附属幼稚園との合同開催した「文化祭」にて
学生が「オレンジリボン」を付けて活動。ポスターの掲示。リーフレットの配布等。(保育科以外の介護福祉科学生も協力)
- ③附属幼稚園・高校へポスター・リーフレット等の掲示と配布

③「オレンジリボン運動」を終えた感想等

- ・子ども達の笑顔を見て、これを曇らせてはいけないと改めて感じた。
- ・これからはより虐待のシグナルに注意しようと思った。
- ・私達が「オレンジリボン」を付けることにより。他の人達の虐待に対する意識を少しでも変えられるなら、これからも続けていきたい。
- ・自分達でも出来ることがあることが分かった。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 関西女子短期大学 実施報告書



実施主体 保育科1年生・2年生

実施内容 平成25年11月9日～10日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- ・授業内でオレンジリボンに関する意義や目的について講義を実施した。
- ・授業内にて啓発ポスター、虐待に関する絵本の制作を行った。
- ・保育科全学生で、オレンジリボンを2000個制作した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・学園祭期間中(計2日間)に啓発展示室を設置し、市民や学生等(216名)に来場を頂いた。
- ・入場者にオレンジ色の紙にメッセージを記入頂き、全員のメッセージを基にオレンジリボンのオブジェを作成した。
- ・大学の最寄り駅(3駅)で2日間に渡り「オレンジリボン啓発セット(リーフレット、オリジナルクリアファイル、オレンジリボン)」を市民の方(計1700人)に配布し啓発活動をした。

③「オレンジリボン運動」を終えた感想等

- ・今回の活動を通じて、より多くの人に虐待防止について伝えたいと思った。
- ・啓発ポスターを作るには難しかったが、調べることで、自分の知識も増え、虐待について深く知ることができた。
- ・保育者になったとき、自分にできることは何か、今まで以上に深く考えるきっかけとなった。
- ・チラシを手渡すと質問してくださる方も有り、説明することが自分自身の勉強に、大変なったと思う。
- ・たくさんの方が来てください、関心をもっていただけたことが、とても嬉しかった。
- ・子どもの発してくれるサインに、気づけるような保育士になりたいと思った。
- ・お孫さんのおられる方が「私のしつけがマルトリートメントになっていいかしら」と話しかけてくださった。悩みながら子育てしておられる方が多くいらっしゃることを感じた。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 大阪成蹊短期大学 実施報告書



実施主体 児童教育学科幼児教育学専攻1年生有志

実施内容 平成25年10月12日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

専門演習Ⅰ(ゼミ)にて児童虐待の動向や虐待をする親の背景を理解するための勉強をおこなう。そのうえで、グループになり、オレンジリボン運動について調べ、プレゼンテーションをおこなう。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

担当教員が、各自にオレンジリボンバッヂを配布し、実施期間に装着することとし、大学祭にてオレンジリボン、リーフレット配布する。その際、できるだけ関心を持ってもらえるように、単に配布するだけではなく、語りかけることを心がける。また、模擬店にも協力を呼びかけ、販売物と一緒にしおりの配布してもらった。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・配布したオレンジリボンを早くつけてくれている方がいたので、とてもうれしかった。
- ・大学の学長先生が保護者向けイベントでオレンジリボンをつけ、この活動を紹介していただいているので、うれしかった。
- ・もっと児童虐待について勉強しなければならないと感じた。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 大阪城南女子短期大学 実施報告書



実施主体 総合保育学科乳児院ボランティア1年生有志、松浦ゼミ、高橋ゼミ
実施内容 平成25年10月20日の学園祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- ・ゼミ内で、児童虐待について学習
- ・「家庭支援論」の講義内で児童虐待について学習し、その中でオレンジリボン運動についても学ぶ

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

- ・総合保育学科では、学園祭である「城南祭」の一企画として、子育て支援ブースを設けている。そのブースのなかで、オレンジリボン運動のリーフレットとチラシを配布し、学園祭に参加してくださった近隣の方々に児童虐待についての理解を深めてもらった。
- ・学内にオレンジリボン運動のポスターを掲示し、周知を促した。

③「オレンジリボン運動」を終えた感想等

・児童虐待の防止活動について、具体的にどのようなことが行われているのかイメージしにくい学生が多くいたが、実際にリーフレットやチラシを見ることで、具体的な取り組みとしてオレンジリボン運動を身近に感じることができたのではないかと思われる。

・学生自身が啓発運動に関わることで、児童虐待問題を意欲的に学ぶことができたと思われる。

・学園祭で、子育て支援の一環としてチラシを配布し、近隣の子育て中の皆様にもオレンジリボンについて知っていただくことができた。



子育て
支援
ブース
の様子

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

常磐会短期大学 実施報告書



実施主体 幼児教育学科 7つのゼミ

実施内容 平成25年10月20日の文化祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- ・児童虐待やオレンジリボン運動についてゼミで学習し、保育者の役割について意識を高めた。
- ・オレンジリボン・児童虐待防止のポスター・オレンジリボン運動のリーフレットの作成をした。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

“文化祭において、オレンジリボンコーナーを設置し、ポスターの展示・オレンジリボンの作成”

- ・リーフレットの配付、募金の呼びかけをした。
- ・絵本コーナーを設け、子どもの思いを訴える絵本の紹介をしたり、絵本の読み聞かせを実施した。
- ・児童虐待についてのアンケートを実施した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・多くの人がオレンジリボンをつけてくれ、たくさんの人にオレンジリボンを見てもらうことができた。
- ・小学生が来てくれたが、どのように伝えれば良いのかわからず、悩んだ。子どもにもわかりやすい方法を考える必要がある。
- ・自分が中心となって活動することで、より学びが深くなった。
- ・今回だけではなく、ずっと続けて知らせていきたい。
- ・小さい子どものお母さんたちにも渡すことができ、やりがいを感じた。
- ・女性も男性もオレンジリボンをつけたり、募金をしてくれており、社会全体で取り組んでいくべき課題であることを認識してくれる人が多かった。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 関西福祉科学大学 実施報告書



実施主体 社会福祉学科・臨床心理学科の保育士課程有志

実施内容 平成25年11月9日～10日の大学祭における啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- ・授業内で、オレンジリボン運動に関する意義や目的について講義を実施した。
- ・学生全員で、オレンジリボン（計3,000個）を制作した。
- ・学生がテーマ毎でグループに分かれ、啓発展示物を作成した。
- ・平成25年度「児童虐待防止推進月間」標語募集に、学生が挑戦し応募した。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

- ・大学祭期間中（計2日間）に啓発展示室を設置し、市民や学生等（計216名）に来場を頂いた。
- ・入場された方に、オレンジ色の紙にメッセージを記入頂き、全員のメッセージを基にオレンジリボンのオブジェを作製した。
- ・大学の最寄り駅（3駅）で、2日間に渡り、「オレンジリボン啓発セット（リーフレット、オリジナル・クリアファイル、手作りのオレンジリボン）」を市民の方（計1,700人）に配布し啓発活動を実施した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・保育者を目指す者として、啓発活動を行う自覚と意識が芽生えた。
- ・入場者の方への説明を行ったが、頂いた質問が難しく、勉強不足を痛感した。
- ・駅で配布したが、なかなか受け取ってもらえないこともあり、啓発活動は難しかった。
- ・授業で学ぶだけでは、無関心者にしか過ぎない。啓発活動を行うことによって、他人事ではなく、保育者としての自覚をしっかりと持つことができた。
- ・ひとりでも多くの方に伝えることができて良かった。
- ・今後の「児童虐待」に関する問題やニュース、授業などに対して、主体的に取り組める意欲がわいた。
- ・自分自身がオレンジリボン運動の重要性を感じていても、他人に関心を持ってもらえるよう伝えることはとても難しかった。
- ・来年もぜひ参加・挑戦したい。



平成 25 年度

「学生によるオレンジリボン運動」

追手門学院大学 実施報告書

実施主体 オレンジリボン運動サポーター有志

実施内容 平成 25 年 10~12 月のべ 10 回ランチョンセミナー



①事前に取り組んだ内容

福祉系教員からの説明会を行い、学生ピアサポーター・学生サークル有志が運動サポーターとなつて少しづつ口コミで広報していった。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

①ランチョンセミナーを通して、学生サポーターによる説明会と啓発資料配布、②学習会後に反省会を重ねながら取り組みを改善し、サポーターを増やした。③併設の幼稚園・中学校・高等学校へのポスター掲示、協力をお願いした。④来年度に向けた計画を考えた。

<下：ランチョンセミナーポスター>

The poster features an orange ribbon logo at the top left. The text reads: "学生によるオレンジリボン運動 at 追手門学院大学". Below this, it says "<ランチョンセミナー>". The main title is "児童虐待について 学びませんか". Below the title, there is a list of points: ★ このたび児童虐待防止について理解と啓発を広めるオレンジリボン運動について、サポーターを募ることにしました。 ★ 深刻な問題だけと「何かできないか」と思う方、ぜひサポーターと一緒にオレンジリボン運動を進めてみませんか？ At the bottom, details are provided: ○日 時 2014年7月8日(月)、9日(火) お昼休み ○会 場 学習支援室(中央棟B階) ○問合せ 社会学部 古川(研究室は中央棟5階) At the very bottom, it says: ☆申込は不要です☆

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

「DVD観賞で子どものケアや里親制度などに关心をもった」「大学で勉強していることから『何ができるか』考えるようになった」「参加しやすく、サポーターを広げる形だった」「意外に知らないことが多く驚いた」「一般学生へ知ってもらうために広告についても勉強ができた/様々なメディアの活用がタメになった」

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 四天王寺大学 実施報告書



実施主体 人間福祉学科 平川ゼミ・畠ゼミ・鳥海ゼミの3年生
実施内容 平成25年11月2~4日の第54回大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

実行委員によるミーティングにおいて活動方針が検討され、事前に以下の活動が行われた。

- (1) 合同ゼミにおいて学生より児童虐待に関する話題提供
- (2) オレンジリボン作成班、メッセージカード班、展示パネル班、イベント班に分かれての準備作業
- (3) 大学祭直前に全学部1年生を対象とする授業においてオレンジリボン運動の趣旨に関する広報活動

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

学舎ロビーに『オレンジリボン運動コーナー』が設置され、大学祭来場者に対して以下の取り組みを通して啓発活動が行われた。

- (1) オリジナルメッセージを付したオレンジリボン1200個の配布
- (2) ブックマークの配布
- (3) オレンジ色の風船によるバルーンアートおよび配布
- (4) 〈子育てにかかる願いを始めた樹〉の共同制作
- (5) 児童虐待の定義や要因、相談機関に関するポスター・パネルの展示

③「オレンジリボン運動」を終えた感想等

- (1) 大学祭来場者に対して、オレンジリボン運動の趣旨について理解を促すことができたと同時に、学生主体の活動に多くの方々からの共感が得られた。
- (2) 〈子育てにかかる願いを始めた樹〉に多くのメッセージが寄せられ、子ども連れの家族と学生が交流する機会として非常に有効であった。
- (3) 実施した学生自身も児童虐待防止に対する理解が深まったと認識している状況がみられた。
- (4) 大学祭終了後、活動を振りかえる機会をもつことによって、運動の意義の再確認や、活動の改善策などを共有することができた。

「保護者、子ども、近隣住民、社会全体に児童虐待防止の想いが届いてほしいという願いを込めて、一つずつ丁寧にリボンを作った。メッセージの描かれた台紙のうえにオレンジリボンが貼られたとき、私たちの想いが社会に届くような気がした。」(学生による感想を抜粋)



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 大阪人間科学大学 実施報告書



実施主体 社会福祉学科 A:「青少年問題と福祉」受講者の有志(40人)
B:社会福祉学科の3年次金澤ゼミ学生(6人)

実施内容 A: オレンジリボンを「大切な人」に手渡して説明しました。
B: 「ユニークなオレンジリボン運動」を実施し、ゼミで発表しました。

①事前に取り組んだ内容

A:「児童虐待」「オレンジリボン運動」について学び、オレンジリボンを作成しました。
B:児童虐待と非行問題の関係について、文献を輪読しました。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

A:作成したオレンジリボンを「大切な人」に説明し、「手渡す」という活動を行いました。
B:「ユニークなオレンジリボン運動」を実施し、ゼミで取り組み結果を発表しました。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

A : オレンジリボンを手渡して

●母に渡したときは「何これ?」という反応だったが、私が説明すると理解してくれ、近所や勤務先の人にも広めておくと言ってくれた。言ってよかったです。

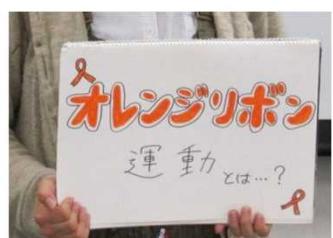
●妊娠中の姉に渡しました。姉は、「私も気をつけるわ」と言いながらお腹をさすっていました。私は虐待防止のために、姉のサポートをしていきたいと思っています。

●高校生の弟に渡した。弟が学校で虐待に気づいた時、すぐに動けるように、とオレンジリボンと児童相談所の電話番号の入ったカードを渡した。弟はいくつか質問をしてくれたのが嬉しかった。

B : ユニークな「オレンジリボン運動」を考えて

★保育士、会社員、学生の3人にオレンジリボンについて話し、立場の違いによる受け止め方の違いがあるかどうかを考えました。→保育・福祉関係ではオレンジリボンについて知る機会がある反面、分野について学んだことのない人たちには知られていないと感じた。

★紙芝居を作って、オレンジリボン運動を説明しました。→紙芝居を作るのは難しいなど感じた。みんな意外と聞いてくれるんだなと感じた。



★友達にオレンジリボンを説明し、一緒にオレンジリボン運動の広め方のアイデアを考えた。→虐待について、一般市民には誤解や知られていないことがたくさんある。そこで、間違った情報が流れがちなテレビを逆手にとって、人気アニメを使って虐待防止のストーリーと虐待をしてはいけないというストーリーを作るというアイデアがうまれた。

平成 25 年度

「学生によるオレンジリボン運動

聖和短期大学 実施報告書



実施主体 保育科 1 年生 波田 垣ゼミ

実施内容 平成 25 年 11 月 23 日、24 日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

波田垣が児童虐待の現状や児童虐待防止の大切さ、オレンジリボン運動の起源や意義等を話した。

その後、155名の学生に学生自身にオレンジリボンを複数作ってもらった。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

11月23日（土）、24日（日）学園祭の両日 そして、学生が作成した約600個のオレンジリボンをオレンジリボンと児童虐待防止のパンフレットを配布する。

③「オレンジリボン運動」を終

えての感想等

全1年生155人が当日配布するオレンジリボン500個を作成。学生らは「児童虐待は常に身近に起こります。手作りのオレンジリボンをつけてもらい、来場者に理解を深めて欲しいです」と気持ちを込めて配布したことによって、児童虐待防止の大切さや児童虐待を子どもの人権侵害であるということを深く実感した。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 近大姫路大学 実施報告書



実施主体 教育学部こども未来学科3年生 松浦・松島ゼミ
実施内容 平成25年12月9日～13日 学内での発表会開催

①事前に取り組んだ内容

児童虐待やオレンジリボンについて、最新の正確なデータを調べ、調べてきたものの中で自分たちが一番伝えたいことをいかに分かりやすく相手に伝えていくかを考え、模造紙にまとめました。模造紙に書く際、見やすく、興味が湧くようにレイアウトをしました。また、オレンジリボン運動に足を運んでもらえるように宣伝し、呼びかけました。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

学内で、ポスターの掲示と口頭発表を行いました。

発表をする際には、簡単に説明してから自由に見てもらう時間をつくり、より興味をもつて見てもらうよう工夫しました。また、発表する時には、全員がオレンジリボンをつけてアピールし、発表の後でオレンジリボン、しおりの配布を行いました。また、オブジェを作成し設置しました。

③「オレンジリボン運動」を終えた感想等

オレンジリボン運動を実施するということで、まず自分がオレンジリボン、児童虐待のことを知るというところからはじまり、各自で調べて発表したのですが、なかなか正確なデータに辿り着かず、とても大変でした。しかし、自分たちで調べていくことで、児童虐待の定義、件数、背景など自分が大まかにしか知らないかった現状を知ることができました。

また、調べたことを人前で発表することも難しく、どのようにしたら相手に興味をもってもらえるかということにすごく悩みました。大変だった分、終わった後は達成感があり、アンケートにも「わかりやすかった」などの声が多く、この運動をして良かったと感じました。

今後は学内だけでなく、学外にも広めていきたいです。



平成 25 年度
「学生によるオレンジリボン運動」

関西保育福祉専門学校実施報告書



実施主体 学友会 オレンジリボン実行委員会

実施内容 平成 25 年 10 月 19~20 日の学院祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

学院祭テーマ「オレンジ～人と人とのつながりを～」と設定。実行委員会として、各クラスから 2 名係を選出、計 16 名によるオレンジリボン実行委員会を組織し、展示・製作・会場準備

②実施期間に取り組んだ具体的内容

1.2m × 1.6m のキャンバス地に、参加者一人一人が作成した小さなオレンジリボンを留めて、大きなオレンジリボンを作り、展示した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

～実行委員長の感想～

実施前には、存在はうっすらと知っていたものの、どのようにして始まったのか知りませんでした。準備を進める中で、とても痛ましい出来事がきっかけだったことを知り、この事実をみんなに知って欲しいと強く思いました。実施後、友達から「関心が深まった」との声を多数聞き、実施してよかったです。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 湊川短期大学 実施報告書



実施主体 幼児教育保育学科 杉山ゼミ2年生+1年生有志
実施内容 平成25年11月2~3日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

各自でより詳しく児童虐待について調べ、児童虐待のことがわかるような展示用ポスターを作成や、児童虐待に関する新聞記事を収集する。また、来学者に対するアンケートを行うために、項目を作成する。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

オレンジリボン運動のブースを設け、大学祭の来訪者や他の学生に声をかけて展示物を見てもらう。その際、しおりを配布する。ブースで展示物をみてもらいながら、質問に応じたり、声をかけたりして話す機会を設ける。最終的に、アンケートを実施し、オレンジリボンとチラシを配布する。

③「オレンジリボン運動」を終えた感想等

試行錯誤の中で準備を行い、実際はどうなるのか不安も高かったが、活動を実施する中で、「もっとこのような活動を広めて欲しい」という声をいただいた。そのことにより、この活動の意義を感じ、この活動がもっと広まり、もっと多くの方に児童虐待について知ってもらうことで、児童虐待を減らしていくことができるのではないかと感じた。

そのため、「オレンジリボン」という言葉を多くの人に知ってもらい、児童虐待を防ぐために、今後も「オレンジリボン運動」を実施していきたい。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 神戸市看護大学 実施報告書



実施主体 看護学部助産学専攻科9期生

実施内容 平成25年10月13日の竹の台ふれあいまつりにて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

参加者が3000人を超えることが予想される地域のまつりであったため、学生間で相談し、配布されたリボン以外にも準備することを決定し、学生間でオレンジリボンを作成した。すぐに参加者が付けることのできるように裏に両面テープを付ける工夫を行った。また、児童虐待に関する絵本の紹介がこの運動の効果を高めることを相談し、図書館等で検索し、絵本の準備を行った。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

「ハンドマッサージ」「赤ちゃん抱っこ体験」とともに「オレンジリボン運動」のコーナーを設置し、立ち寄った参加者にリボンにシールを付けてもらい、リーフレットを渡した。同時に「竹の台ふれあいまつり」会場の小学校運動場である会場を巡回し、オレンジリボンやリーフレットを配布した。小さな子どもたちには、隣のコーナーで行っている「赤ちゃん抱っこ体験」も促し、小さな子どもたちが赤ちゃん人形を抱っこする体験のサポートをした。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

(学生)「児童虐待のことを幅広い年代の方々に知ってもらう機会になってよかったです。」

「子どもたちにもリボンを配布して興味を持ってもらえたと思うが、オレンジリボンの意味などについて理解してもらえたかどうかは分からないと感じた。」

(専攻科)

「これから母子と密接に関わる助産師学生が、この運動に携わることで、責任を再確認したのではないかと思う。また、地域のおまつりでこの運動を行うことで地域の方々の見守りが児童虐待を予防することにつながるなど、広い視野で児童虐待問題を捉える機会になったと考える。」



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 甲子園短期大学 実施報告書



実施主体 幼児教育保育学科 I回生

実施内容 平成25年10月13日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

関連授業内(保育実習指導・社会的養護等)において、保育現場で考えられる虐待の例を挙げ、身近に起こりうる虐待の社会的背景についてなど理解を深めた。また、保育者としてどのような意識や知識が必要かを、学生同士で話し合う機会を設け意見を出し合った。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

事前学習終了後、班に分かれてポスターの制作、配布用のオレンジリボン作りなどを行った。また、虐待防止の啓発ビデオを見たり、近年に起きた虐待のデータなどを参考に調べ学習を行った。

③「オレンジリボン運動」を終えた感想等

- ・学習を通して、母親の孤独から虐待が始まることを知りました。
- ・暴力以外にも虐待が存在することを知った。他人事ではないと思った。
- ・虐待されていない私には虐待された子どもの気持ちはわからないけれど、行き過ぎた愛情から虐待につながることもあることを知って、身边にあるものだと思った。
- ・子どもは未来の希望。何十年後かには「虐待」という言葉がなくなっていてほしいと思います。
- ・虐待から目をそらさず、正しい知識を持って、心の目で見ることが大切だと思った。

- ・虐待はする側の問題だと思っていたが、するほうにもいろいろな事情があつたり背景があつたりすることが分かった。虐待してしまう親の気持ちを考えることも大切だと思った。
- ・虐待を認識していない人への啓発が大切だと思った。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 神戸学院大学 実施報告書



実施主体 神戸学院大学 社会リハビリテーション研究会

実施内容 平成25年11月2日の本大学同窓会にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- ・児童虐待についての学習会を開催し、児童福祉や児童虐待の諸問題について学ぶ機会を設けた。
- ・自分たちのできる児童虐待防止の取り組みについて話し合いの場を兼ねて、オレンジリボンの作成に取り組んだ。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

- ・学園祭期間中に開催される同窓会(11月2日)においてオレンジリボン配布運動を行った。神戸学院大学の卒業生は神戸市および兵庫県・大阪府下を中心に社会で活躍されており、広く市民に虐待防止を呼び掛けるための手段としてこの場を選んだ
- ・指導教員の担当する授業をおもに活用し、学内でのオレンジリボン配布活動を行った。
- ・学内で学生、教職員にオレンジリボン配布運動を行った。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・同窓会でのオレンジリボン配布運動は、理事長、学長をはじめ教職員、同窓生など多くの人々にパンフレット配布とともにを行い、興味関心を示してもらった。
- ・学生、教職員にオレンジリボンをつけてもらい、学内で児童虐待防止の啓発キャンペーンを行うことができた。
- ・リボンをつけていると、その理由を聞かれるので、虐待防止の説明をしやすかった。この活動を通じて、今後も虐待防止について考えて行きたいと思った。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 甲子園大学 実施報告書



実施主体 医療福祉マネジメント学科4年生他

実施内容 平成25年11月日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- ・児童虐待問題については、すでに授業の中で学習していたが、改めて児童虐待防止対策を進める上で、市民への啓発が重要で、オレンジリボン運動の意義について再確認した。
- ・「オレンジリボン運動」の啓発を意識し、オレンジ色のグッズ(Tシャツ、飾りなど)を用意した。
- ・大学所在地の宝塚市要保護児童対策地域協議会が実施する街頭キャンペーンへの参加について同意を得たが、授業日程との関係で参加できなかった。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

- ・学園祭に来場した市民・卒業生・在学生に対して児童虐待問題を理解してもらい、虐待に気づいた場合の通告の重要性について知ってもらうためにポスター掲示を行い、チラシなどを配布、オレンジリボン運動について呼びかけた。
- ・近隣の商店街活性化事業に大学が参加した中で、来場者にオレンジリボン、チラシを配布し、児童虐待防止の啓発を行った。
- ・11月中は、学内に啓発ポスターを掲示した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・11月が児童虐待防止月間であることを伝えながらチラシを渡すとすべての人が好意的に受け取ってくれた。児童虐待防止に関心を持ってくれている様子が感じられた。
- ・中には、配布したオレンジリボンを早速胸につけて、大学祭会場を歩く市民の方々もおられた。
- ・模擬店で販売した“たこ焼き”の楊枝にもオレンジリボンをつけたところ、注目された。
- ・大学祭には、学科の卒業生も来場し、オレンジリボン運動にも関心をもち、協力してくれた。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 神戸医療福祉大学 実施報告書



実施主体 生活医療福祉学科児童福祉コース 3・4年生有志
実施内容 平成25年10月26日～27日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

有志学生でオレンジリボンのポスターを作成し、ひと言メッセージを添えて、ゼミ室前に掲示した。
実施日に使用するアンケート調査の質問用紙と、プラカードの作成を行った。
学園祭関係者には、事前にオレンジリボンを配り、左胸につけてPRして頂いた。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

オレンジリボン、缶バッジ、しおりを配布し、リボンを洋服につけて頂くように声かけ運動を行った。
児童虐待に関するアンケート収集を行い、118の方にご協力をいただいた。
オレンジ色のジャンバーを着用し、プラカードを持つなど、視覚的なPRも心がけた。

③「オレンジリボン運動」を終えた感想等

アンケートを実施するにあたり、快く受け入れてくださる方と、そうでない方の二通りがあることを知りました。児童虐待のアンケートという内容に抵抗を感じられたのかもしれません。が、人に何かを頼むこと、理解をして頂くことは難しいことでした。しかしながら、アンケートには118の方々からご協力を頂くことができ、心から感謝しています。アンケート結果より、オレンジリボンは乳がんやエイズのリボンに比べ、認知度が低いことがわかりました。また、身体虐待に関する認知度は高かったものの、虐待の種類や躾と虐待の境界線に関しては理解が曖昧で、「自分が子どもに対して行っている行為が虐待か躾かわからない」という意見もあり、虐待の内容についても理解して頂けるような活動の工夫が必要だと実感しました。



HPアドレス <http://www.kinwu.ac.jp/>

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

武庫川女子大学 実施報告書



実施主体 心理・社会福祉学科社会福祉コース3年生有志

実施内容 平成25年10月19・20日の文学祭、11月1日に啓発活動

①事前に取り組んだ内容

文化祭の展示発表のために、児童虐待について模造紙にまとめた。西宮市の協力の元、子育てサロンに参加している民生・児童委員、主任児童委員に児童虐待防止についてインタビューを行った。また、文化祭の来場者に配布するダイヤルカードを作成した。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容

文化祭では、事前に作成したダイヤルカードの配布や模造紙の展示発表を行った。児童虐待について、西宮市からお借りしたオレンジネットで使用した物品を展示した。オレンジリボンの作成やオレンジリボンの認知度調査を行った。また、11月1日には、西宮市の活動のオレンジネットに参加し、阪神甲子園駅周辺で児童虐待防止に関するティッシュ、ちらしを配布した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

オレンジリボン運動を通して、今まで知らなかつた児童虐待の現状や対応について学ぶことが多くあった。

活動を通して特に感じたことは、オレンジリボンの認知度が低いということだ。ピンクリボンの認知度が圧倒的に高かったように思う。さらに、虐待というと、メディアに報道されているような事例に目を向けることが多いが、メディアに報道されないような虐待のケースに関しては関心を持つべきであると思った。

また、今回協力して頂いた民生・児童委員、主任児童委員へのインタビューの中で、孤立している家庭は虐待を起こしてしまうという話を伺った。そこで、今回の活動を通して、少しでも子育てに悩む親御さんの力になればと思った。それと同時に、学生の児童虐待への関心が高まれば嬉しく感じた。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 流通科学大学 実施報告書



実施主体 サービスマネジメント学科 加藤曜子ゼミ

実施内容 平成25年10月19.20日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

2年ゼミ生については、子どもの権利について学習し、またオレンジリボンについて調べ、ポスターを作成。3年ゼミ生については、「父親について考える」のテーマで、育児に関する父親の認識や実態を調べたうえで、ポスターを作成。

②実施期間に取り組んだ具体的な内容 オレンジリボン運動は6年目を迎えることになりました。2日間、子どもと親と若者や祖父母を対象にした「子どもの明るい未来の部屋」を開設。ゼミ生の学習した内容を展示するとともに、折り紙コーナー、塗り絵コーナー、リボン作成コーナー、及び兵庫県児童養護施設協議会との共催で、「親育て」に関する施設長からミニ講義、さらに乳児院スタッフによる学生向け赤ちゃんの抱き方術獲得などの機会を設けた。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

2年生の学生「自分も難しい家庭に育ったが、父も母も自分を愛してくれた。しかし親に愛されずに虐待をされてしまう子どもたちがいることは残念です。少しでも多くの子を助けられる活動に参加し、賛同が得られたことは有意義な活動であったと思う」「オレンジリボン活動を通じて子どもの大切さを実感することができた」

3年生「オレンジリボンを通して子育てについて、揺さぶりはだめだということなども考えさせられた」「今後もこの活動に参加できればいいと思う」「親子で参加してくれ遊びを通して楽しめた。一人ひとり個性が違っていいんだと思った」(抜粋)

